

嵯峨山遺跡第16地点発掘調査 現地説明会

1. はじめに

新座市内には、遺跡が発見される可能性の高い場所（周知の埋蔵文化財包蔵地）が108か所あり、このような土地で土木工事等を実施する際には、事前に試掘調査が必要となります。試掘調査の結果、埋蔵文化財の所在が確認された時は、保存の措置を講じますが、その方法の一つが発掘調査となります。嵯峨山遺跡第16地点においても、土木工事によって遺跡が破壊される危険性が高いため、発掘調査によって記録保存をすることになりました。

2. 遺跡の立地

新座市内には、何万年という時間をかけて黒目川が大地を削った痕跡である、河岸段丘があります。この河岸段丘の上、すなわち、台地の縁辺部においては、縄文時代の遺跡が見つかることが多くあります。台地の縁辺部は、見晴らしがよく、水資源を利用しやすい一方、洪水等で家が水没する恐れが少ない場所です。縄文人は、このような自然条件を考慮した上で、住む場所を決めていたようです。

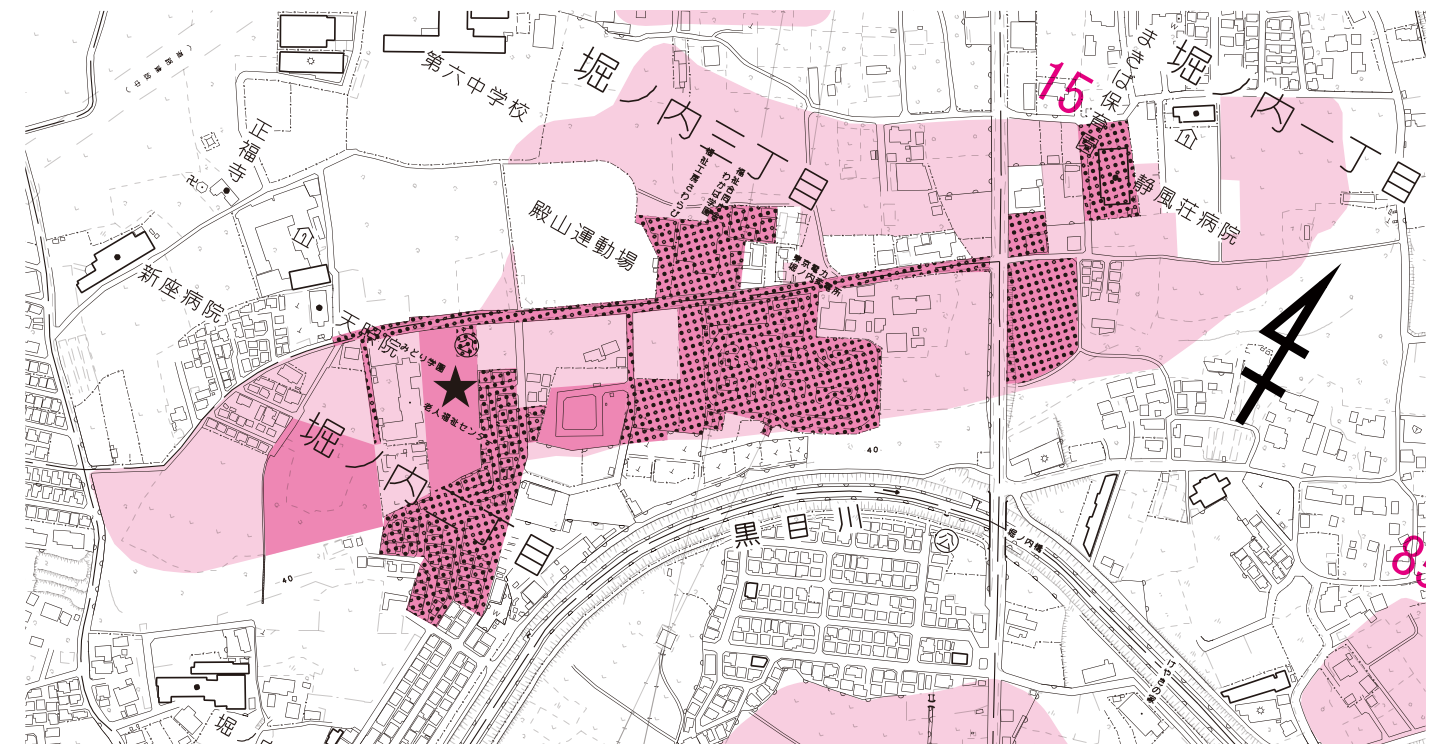
3. 嵯峨山遺跡

縄文時代中期を中心とする集落遺跡で、埼玉県選定重要遺跡となっています。これまでに15回の発掘調査が行われており、旧石器時代、縄文時代早期～後期、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が発見されていますが、やはり縄文時代中期の資料が最も多く出土しています。

集落の中心部は、第3地点（現・自動車教習所）と推測され、今回の第16地点は、集落のはずれにあたるようです。住居跡は発見されていませんが、土器の破片は多く散らばっており、埋甕（うめがめ）や集石遺構も発見されていることから、生活空間の一部であったと考えられます。

※縄文時代ってどんな時代？

1万年以上の長きに渡る時代で、土器を利用し始めてから、大陸から弥生文化が伝わるまでが大まかな期間です。草創期・早期・前期・中期・後期・晩期に大別され、人々は縄の模様のある土器を作り、イノシシやシカなどを狩り、木の実や貝などを採集し、竪穴住居で暮らしていました。



嵯峨山遺跡の範囲

4. 嵯峨山遺跡第16地点で見つかったもの

(1) 遺構

- ・土坑（ピット）：形や出土品、配置などから用途を推定してきます。
- ・集石遺構：焼けた石と炭化した木材をまとめて捨てたようです。
- ・埋甕：土器の底部を打ち欠いてから、地中に埋められていました。

(2) 出土品

- ・土器：縄文時代中期の土器が多く見つかりました。土器片錘もあります。
- ・石器：黒曜石製の矢尻、打製石斧が見つかりました。
- ・炭化物：集石遺構からは、炭化した木材が多く見つかりました。

5. 調査成果

住居跡が発見されなかった代わりに、集石遺構が多く発見されました。これがどのような活動の痕跡なのかを検討していかなければなりませんが、少なくともこの地で生活していた人々は、住む場所（竪穴住居）と作業場所（集石遺構）を明確に区別していたようです。

発掘調査は、現場での作業で終わりではありません。出土品や図面・写真などを整理し、報告書を刊行して始めて調査完了となります。今回出土した資料の整理と分析を行い、過去に行われた嵯峨山遺跡の発掘調査成果も併せて検討しながら、集落全体の様子を復元してまいります。



その他の遺跡や文化財についても、新座市ホームページに掲載しています。

集石遺構③



集石遺構⑤



集石遺構⑥



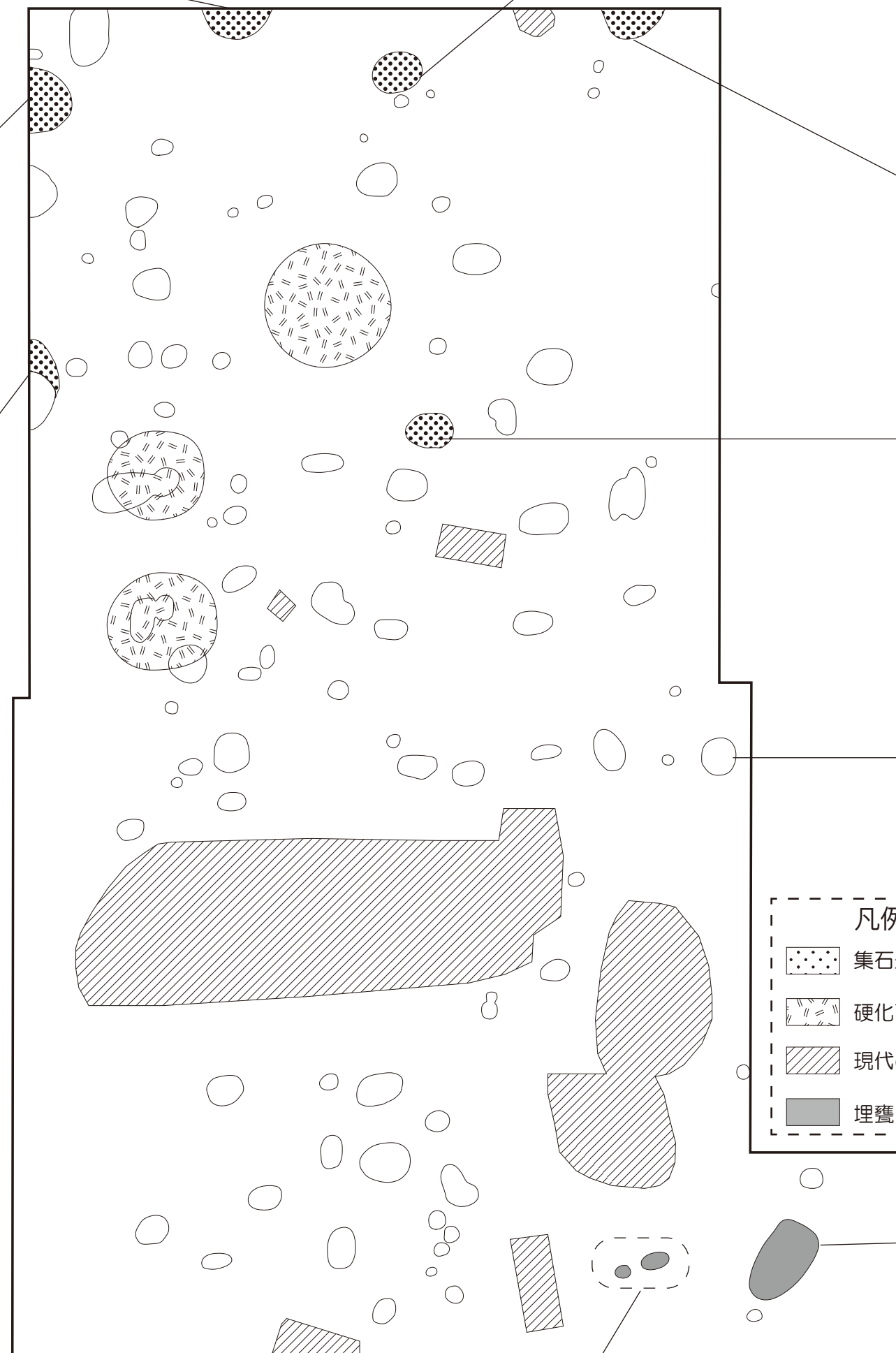
うめがめ
埋甕②



うめがめ
埋甕①



嵯峨山遺跡第 16 地点概略図



- 凡例
- 集石遺構
 - 硬化面
 - 現代のゴミ穴
 - 埋甕・土坑

集石遺構④



集石遺構②



集石遺構①



土器出土状況



土坑

